

| | |
|-------------|--|
| 開催地名：静岡県袋井市 | |
| 開催日時 | 令和4年9月22日（木） 18：30～20：00 |
| 開催場所 | 袋井市防災センター |
| 語り部 | 太田 千尋（宮城県仙台市） |
| 参加者 | 袋井市職員ほか 108名 |
| 開催経緯 | <p>当市では南海トラフ巨大地震による被害が想定されており、市内指定避難所を64ヶ所、拠点となる支部拠点避難所を18ヶ所設けている中で、現在、避難所設営に際して、「避難者（住民）主体の避難所設営」と「男女共同参画に配慮した避難所設営」を重点課題とした取り組み防災訓練を実施しているところである。自主防災組織が中心となり自主運営する避難所に対し、市の公助をどう取り入れるか、避難所を運営した経験から得た課題等をご教授いただきたく、本講演を実施する。</p> |
| 内容 | <p>（1）東日本大震災</p> <p>私の住む仙台市内では、宮城野区が震度6強、青葉区、若林区、泉区が震度6弱、太白区が震度5強であった。震度5と震度6とは揺れの大きさが全く違う。縦揺れ、横揺れ、今度はななめ揺れと、どうしたら良いか分からないような揺れが6分程度長く続いた。地下からすごい勢いで突き上げる感じの揺れであった。そのあと、皆さんご存じのように仙台市でも津波に襲われ、大きな被害を受けた。今までこのような津波に襲われた経験がなかったことが、避難が遅れた要因であろう。また、市内各所で避難所が開設され、多くの住民が避難した。</p> <p>（2）避難所運営について</p> <p>避難所内は土足禁止にしないと、特に津波や洪水などの水の災害の場合は避難所が砂漠みたいになってしまい、マスクをしないと中にいられない状況になってしまう。トイレについては、男性用と女性用のトイレの距離を離すということや、手洗い用のジャグを用意することの必要性を痛切に感じた。これらについては、避難所に派遣された保健師に工夫をしていただいた。保健師が派遣されて適切な対処をした避難所と、派遣できなかった避難所では、避難所内の環境に大きく差が出てしまったことは事実である。</p> <p>仙台市では、避難所の運営はその地区の自治会長たちで作った避難所の運営委員会で行い、その運営委員会の中で分野ごとに班を構成し、住民主体の役割分担を実施していた。そしてその避難所に、機械的に割り振られた市職員が派遣され、運営に携わるようなやり方だった。派遣された市職員は思うような活躍ができず、心理的にも苦勞した事実があり、これは震災後に反省点として指摘された。そのため、現在では避難所の担当を決めて定期的に訓練にも参加するような形式に移行した。</p> <p>東日本大震災後の避難所生活に伴い、東北地方では窃盗団も多く発生した。仙台市でも見受けられたので、自治体関係者は心づもりが必要である。避難所で避難生活をしているということは、家は不在（留守）の状態ということである。他県ナンバーの車両や標準語を話すグループ等、怪しいと感じた場合はむやみに情報を提供しないよう注意した</p> |

い。

(3) さいごに

昭和 53 年に発生した宮城県沖地震と東日本大震災では、大規模損壊した住宅の数は約 6,000 棟と約 57,000 棟ということで、地震の規模に比例した形となっているが、死者という観点で見ると、建物等の下敷きとなって亡くなった方は、宮城県沖地震の際が 16 名で、東日本大震災ではほとんど発生していない。ご認識の通り、東日本大震災では、ほとんどの犠牲者が津波によるものだったのだ。この事実は、いつか大きな地震が来るだろうという予測のもとに、様々な準備を行っていたことが要因だったと思う。

仙台市は、東日本大震災の津波により被害を受けた仙台市東部地域の再生に向けて、平成 26 年度から平成 28 年度にかけて東部地域の 13 カ所に津波避難施設（タワー型 6 カ所、ビル型 5 カ所、津波避難屋外階段 2 カ所）を整備した。津波の到達時間を 45 分と想定し、それまでに安全地域まで避難できない住民が頼ることのできる施設として、夜間停電時にも避難がしやすいよう、屋上に太陽光発電柱を設置したり、車椅子等での避難に配慮してスロープを設置するとともに、水や食糧をはじめ、発電機、投光器、ストーブ、簡易トイレセット、防災行政無線等を備蓄している。

私の家には震災発生時にカセットコンロが 3 台ほどあった。震災の際にそのうち 1 台を知人に貸してあげたところ大変喜ばれた。水や食料はもちろんだが、このように有効な物資についての備蓄は非常に大切なことである。常日頃から防災啓発活動を、組織内や地域内で実施していくことが極めて重要である。



開催地より

避難所運営において「必用なこと、苦勞したこと、体験したこと」について豊富な資料を基にわかりやすくお話しいただいた。今回の講演を参考にして、職員の身体的ケアを含めた、長期間の避難所運営に耐えうる職員配置についてや、ボランティアセンター立ち上げに取り組んでいきたいと思う。